

## モモ病害虫の発生状況（8月）

### （1）モモせん孔細菌病

8月中旬の新梢葉での発生ほ場割合は平年並～低い状況でしたが、8月上旬より増加し、中発生ほ場も確認されています（図1）。秋期に降水量が多いと、翌年の春型枝病斑が多くなる傾向にありますので、秋期防除を徹底して、越冬菌密度の低下を図りましょう。

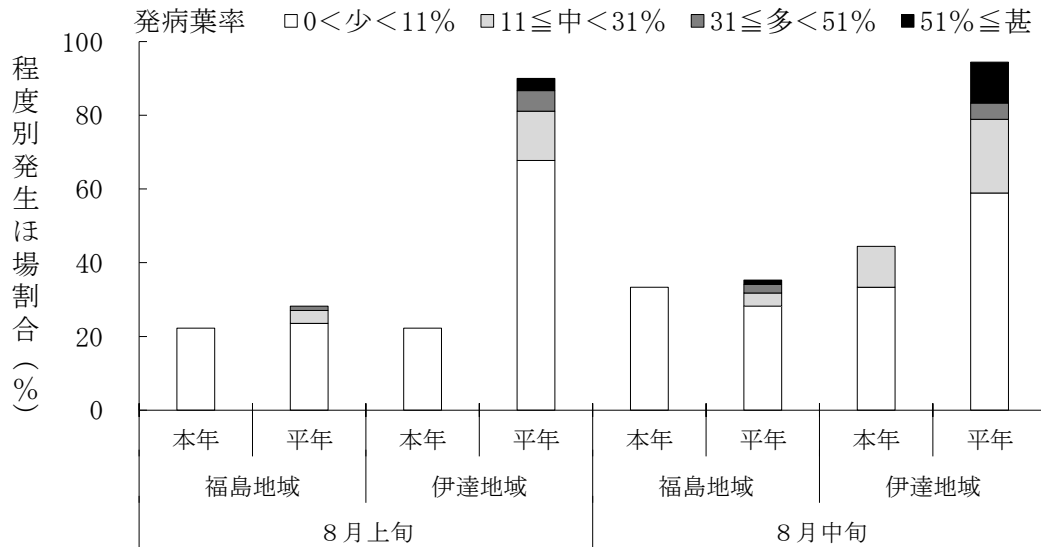


図1 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況（8月上旬、中旬）

### （2）モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。

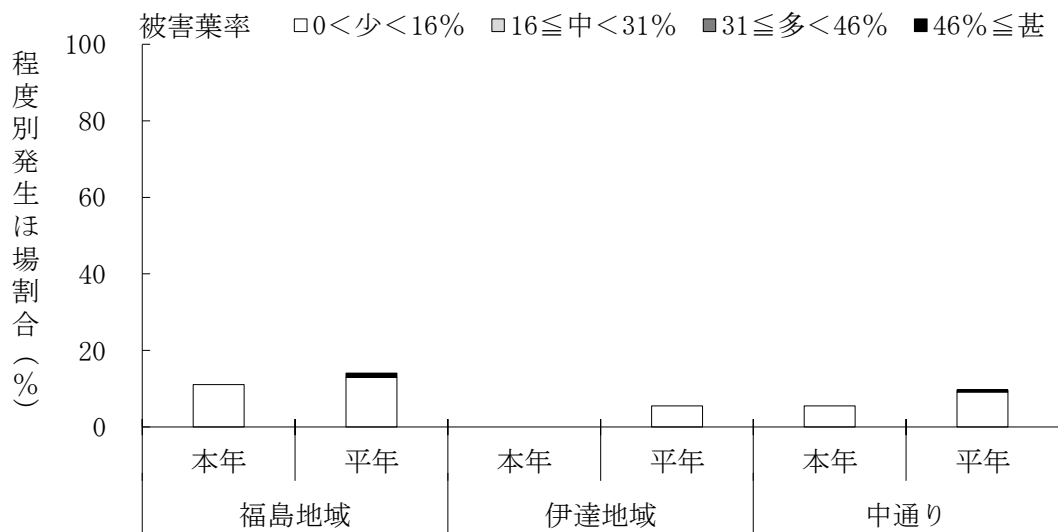


図2 モモハモグリガの発生状況（8月中旬）

### (3) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図3）。

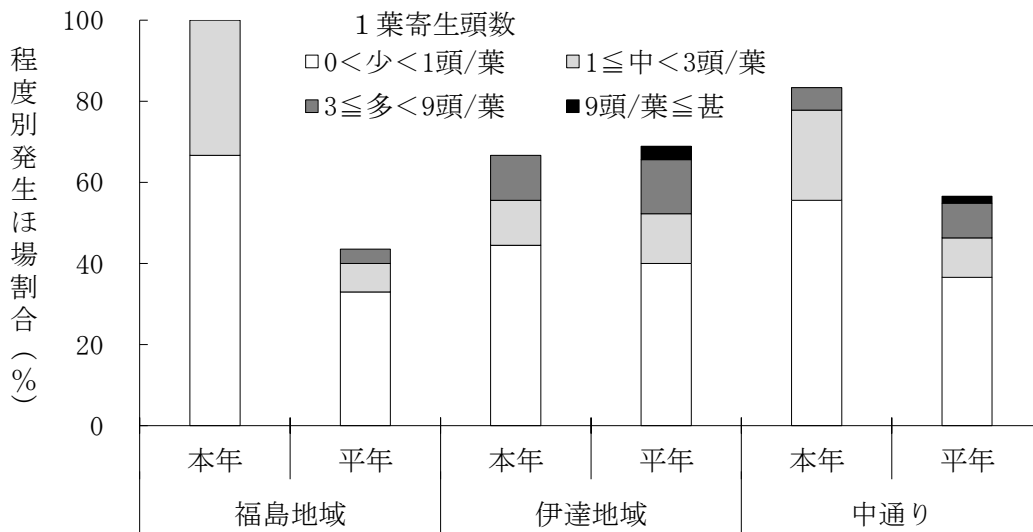


図3 ハダニ類の発生状況（8月中旬）

### (4) ナシヒメシンクイ

新梢のナシヒメシンクイによる被害の発生ほ場割合は平年より高い状況でした（図4）。ナシヒメシンクイ第4世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、8月6半旬ごろと予測され、第5世代幼虫の防除適期は9月1半旬ごろと推定されます（農業総合センター果樹研究所、8月15日現在）。

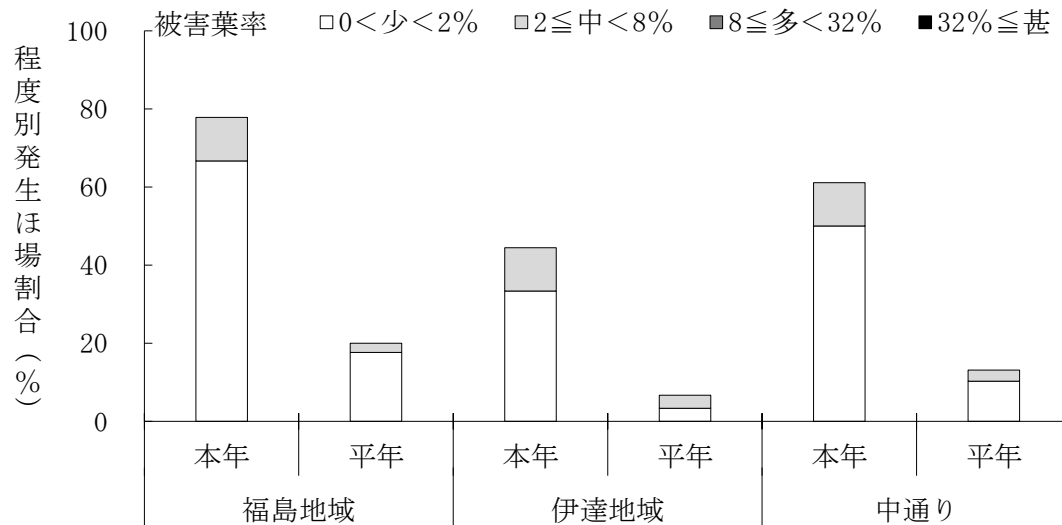


図4 ナシヒメシンクイによる新梢の被害状況（8月上旬）